

——上期の回顧と下期の見通しについて。

「売上高は若干の増収」

で、各損益は前年同期から落ちてはいるが、通期目標の半分程度を計上で

きた。増収を確保できた要因は、鋼材売り上げ分は落ちた一方で賃貸収入が前年同期と比べて多かったこと。3力年計画で

掲げる「賃貸重視の営業力強化」の下、単価、稼働率ともに若干の改善ができたことが一番の成果。連結子会社も対前年同期でプラスを積み上げてきている。期初段階では、下期から事業環境が良くなると見ていたが、直近では下期も上期と同じような環境が続くと見ている。比較的、活況を呈している首都圏と東北

の両地区では、工事の進捗・着工遅れにより出荷が先延ばしになっている。同時に資材の戻りも遅れがちで、稼働率や賃貸収入はある程度水準を保っている。来期から需要は盛り上がってくる」と予測している」

己資本比率、有利子負債などの数値目標も当初目標以上が達成できる見通しだ。一方で、方針に據ける『貸貸重視の営業力強化』を推進してきたが、適正単価にはまだ未達だ。この、今年度は局所的に貸貸単価の弱含みが散

については、景気減速の影響もありタイ丸建は13年、14年実績に対してだいぶビハインドしているが、全体的には底上げできた」

——次期中計への展望は。

「今中計は『成長のた

分で、中間管理職がこれだけ守備範囲をうまくカバーしているか、各持場での合理的な判断ができていのかといった各部署・各段階の成長をいかに遂げるのかが次の課題と考えている」

——事業会社の今後の

いきたい。上下水道工事会社の興信工業は引き続き、設備工事のノウハウを生かしてメンテナンス分野への参入を図る。入札に左右される事業に安定感を加えるため事業を広げていきたい。機会があれば同じような業態の

見通し

整備用の機械をより安全性、効率性に優れたものに順次切り替えている。

――20年の東京オリンピック開催に向けて、需要のピークをいつ頃と見るか。

「東京五輪にインフラ整備を間に合わせようと

見されている。事業会社

めの礎『と』と

見通しについて。

会社のM&Aなども検討

ていない部

いう流れはあるものの、

——今年度が最終となる中期経営計画の進捗について。

見されている。事業会社

めの礎は『5』として書

見通しについて。

会社のM&Aなども検討

ていない部
分もあり、
今後、見極

いう流れはあるものの、
実際には間に合わないも
のも出てくると見られ、

「14年度に当初の最終年度目標を前倒しで達成したため、それを上方修正したものが今年度の業績予想となっている。自

貸貸

重視

で
基盤

固め

達成

めていかな
いといけな
い」

——設備
投資の状況

五輪後も首都圏を中心としたインフラ関連需要は続く。東北地区についても、大手ゼネコンが手掛ける護岸工事といった大

A black and white portrait of a middle-aged man with dark hair, wearing glasses, a dark suit jacket, a light-colored striped shirt, and a dark tie. He is looking slightly to the right of the camera with a neutral expression. The background is a light, textured gray.

清水 教博社長

貸重視でベ
スを固めた。
来年度からの
次期中計では
成長戦略をど
う描くかが重
要。前線とな
る営業・工事
の現場でしっ
かりと合理性
を持った仕事
がなされてい
るかという部

「タイ丸建はミャンマーやインドネシア、ベトナム、カンボジアなどにも出荷しているが、スロット対応のため現時点では持続的な事業ではない。ただ、量を増やしていけばタイ丸建にとって1つの枝になっていく。」

タイは経済成長も安定しており急激な伸びが見込めづらいい中で、将来的には周辺国向けを伸ばして

していく。また、北海道の工事業者である丸建基礎工事では、今月から社長を交代し、若返りを図っている。発想を変えて、公共団体から直接、仕事を受けられるような仕組みづくりをできないかなど考えている」

——海外展開についての考え方は。

「アジアの中で需要の強い地域に新たに拠点を

中期経営計画

型工事は一巡したが、これからは地場ゼネコンが中心となつて建築の仕事が増えてくる。生活インフラの整備など地域に密着した仕事が多く出てくるだろう。宮城、岩手の復興には3～5年ぐらいは時間が掛かると見ており、福島も考えるとあと10年近く復興事業は続く可能性がある」

（伴野 隆馬）

賃貸重視で基盤固め

中期経営計画達成の見通し

にだ、アセア
にしばらくは
タイ丸建で
カパーで
き、それ以
外の地域は
すぐに出店
するには需
要が成熟し
ていない部
分もあり、
今後、見極
めていかな
いといけな
い」

——設備
投資の状況
は。

「今年度
の設備投資
額は、全社
ベースで前
年度比2—
3割増、特
に工場関連
は5割増と
増やしてい
る。クレー
ン設備の更
新に加え、

整備用の機械をより安全
性、効率性に優れたものの
に順次、切り替えている」

——20年の東京オリン
ピック開催に向けて、需
要のピークをいつ頃と見
るか。

「東京五輪にインフラ
整備を間に合わせようと
いう流れはあるものの、
実際には間に合わないも
のも出てくると見られ、
五輪後も首都圏を中心と
したインフラ関連需要は
続く。東北地区について
も、大手セネコンが手掛
ける護岸工事といった太
型工事は一巡したが、こ
れからは地場セネコンが
中心となって建築の仕事
が増えくる。生活イン
フラの整備など地域に密
着した仕事が多く出てく
るだろう。宮城、岩手の
復興には3—5年ぐらいの
復旧時間が掛かると見てお
り、福島も考えるところと
10年近く復興事業は続く
可能性がある」

（伴野 隆馬）